

福島敏夫随筆集

「乙戸南雑話「花鳥風月及び星・虹を愛でながら」から

主宰論説 3 2

桃源郷および理想郷

「桃源郷」という言い方があり、理想の楽園の中国版として言われるようである。六朝時代の田園詩人と言われた陶淵明の桃園に関する漢詩に由来するようだ。また、イギリスのトマス・モアが著した書籍に、「ユートピア」があるようだ。現実には存在しない、あこがれの理想郷であるが、管理社会で、個人的な自由が存在しない状況を、やや、揶揄を込めて示した著述であつたらしい。アメリカの「オズの魔法使い」という映画で、「虹のかなたに」という歌が出てくるが、天空の理想の空間へのあこがれを考えたものであるようだ。日本に目を転じると、「紅孔雀」という人形劇で、「まだ見ぬ楽園の国」として、太平洋を越えた中央アメリカの地域が、イメージされていたようである。1970代の「西遊記」というテレビドラマで、ヘレニズム時代のバクトリアの故地である中央アジアのカンダーラ地方が、「ユートピア」のイメージを持って、とある歌手グループが、歌っていたことが、思い出される。人生は、必ずしも筋書き通りにはいかず、不測の事態も多い。夏目漱石が、その著作「草枕」の中で、「とにかくこの世は住みにくい。住みにくさが高じると、どこかに逃げ脱したくなる。どこに行っても住みにくいと分かったとき、絵や詩が生まれる。」というようなことを述べている。住みにくいこの世での芸術の効用を考えたものだったようだ。必ずしも人間が住めそうもない断崖絶壁や海の孤島のところに、宗教的な居住空間が形成されることもある。そこで、宗教的活動を行う人々は、そこを「ユートピア」と考えたのだろうか？ いずれにせよ、桃源郷および理想郷は、住みにくいこの世から若干離れた幻想の異次空間を意味するものと考えられるようだ。

自由短歌

幻の異次空間の桃源郷探し求めて何千里

令和4年11月4日

富士山と筑波山

富士山と筑波山は、[西の富士、東の筑波]と並び称され、関東地方では、ともに、霊峰として、山岳信仰の源にもなってきたようである。最近、テレビや色々なメディアで、富士山や筑波山の色々なところからとらえられた映像が提供され、楽しむ人も多いようである。北アルプス、中央アルプス、南アルプスの連山・連峰と違い、いずれも、単独の山に近い。

富士山の多面的な姿については、江戸時代の浮世絵画家の葛飾北斎の「富岳三十六景」とも関連して、関東の各地から見える映像、飛行機の窓から眺められる映像も、提供されているようである。その成層火山としての優美な姿は、「富士山」という文部省唱歌にも歌われ、万葉の昔から、「不二の山」として、日本人の心を捉え続けてきたようである。富士山の美しい姿は、山梨県側の富士五湖との関連するものが多いが、静岡県側の三島、沼

津、田子の浦、浜松からの白雪を冠した映像もよく目にする。相模湾、七里ガ浜、由比ガ浜、平塚、あるいは、箱根などの神奈川県側からの映像も、結構多い。また、東京湾を挟んで、館山などの千葉県側からの富士山、最近では、東京の六本木ヒルズからの富士山の映像も、提供されているようである。

紫峰（しほう）と呼ばれる筑波山は、茨城県側にあるが、男体山と女体山が、双方の峰をなしている。北関東の霊峰として、古来いろいろな人の来訪を得たようである。しかし、その遠景、全貌を示す画像の提供は、少ないようだ。「無人飛行機」のドローンの特撮で、真上から見た映像が、提供されるのを期待したいものである。「つくばねの峰より流れる男女ノ川恋ぞ積もりて淵となりぬる」という百人一首の歌にもあるように、女体山と男体山の峰の間から源を発して流れる男女ノ川は、桜川に合流して、土浦の霞ヶ浦に注いでいる。前にも述べたことがあるが、富士山が、成層火山としてのその美しい姿で人々を魅了し続けてきたが、時々、大噴火で災禍ももたらし、自然の猛威をも知らしめる山だった。筑波山は、北関東の霊峰として、自然災害の例も少なく、長く、山岳信仰の対象となってきたようだ。

令和4年11月4日

俳句：青い空虹のかなたの秋の暮れ